

製品名: ラトロフィリン-1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13232**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	LPHN1
別名	LPHN1; KIAA0821; LEC2; Latrophilin-1; Calcium-independent alpha-latrotoxin receptor 1; CIRL-1; Lectomedin-2
遺伝子 ID	22859.0
SwissProt ID	O94910
免疫原	抗血清はヒト LPHN1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 561-610

背景

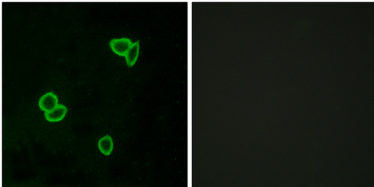
この遺伝子は、G タンパク質共役受容体 (GPCR) のラトロフィリンサブファミリーのメンバーをコードしています。ラトロフィリン

は細胞接着とシグナル伝達の両方に機能する可能性があります。ヒト以外の生物種を用いた実験では、システインに富む GPS (G タンパク質共役受容体タンパク質分解部位) ドメイン内での内因性タンパク質分解により、2つのサブユニット (大きな細胞外 N 末端細胞接着サブユニットと、GPCR のセクレチン/カルシトニンファミリーと高い相同性を持つサブユニット) が細胞膜に非共有結合して生成されました。ラトロフィリン-1 は、クログケグモ毒に含まれる神経毒 α -ラトロトキシンをシナプス細胞膜へリクルートすることが示されている。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数のバリエーションが生じる。 [RefSeq 提供、2008 年 10 月],ドメイン: α -ラトロトキシンに対する完全な応答には、単一の膜貫通領域に結合した細胞外ドメインで十分である。機能: α -ラトロトキシンに対する高親和性のカルシウム非依存性受容体。 α -ラトロトキシン (クログケグモ毒に含まれる興奮性神経毒で、ニューロンおよび神経内分泌細胞からの大量のエキソサイトーシスを誘発する) に対する高親和性を示す。この受容体は、エキソサイトーシスの調節に関与していると考えられる。PTM: タンパク質分解により、細胞外サブユニットと 7つの膜貫通サブユニットの2つのサブユニットに切断される。このタンパク質分解処理は、生合成経路の初期段階、小胞体またはゴルジ体の初期区画で行われる。類似性: G タンパク質共役受容体 2 ファミリーに属する。LN-TM7 サブファミリー。類似性:GPS ドメインを1つ含む。類似性:オルファクトメジン様ドメインを1つ含む。類似性:SUEL 型レクチンドメインを1つ含む。サブユニット:7 回膜貫通部位 (p85) に非共有結合した大きな細胞外領域 (p120) からなるヘテロ二量体を形成する。PDZ ドメインを介してシンタキシンおよび SHANK ファミリーのタンパク質と相互作用する。

研究分野

-

画像データ



LPHN1 抗体を用いた LOVO 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。